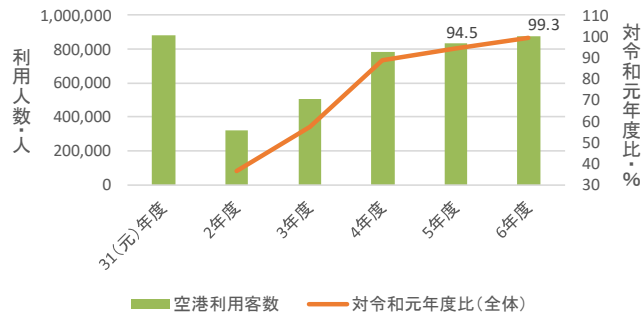


～オホーツク管内の観光産業の回復状況について(令和元年度～令和6年度)～

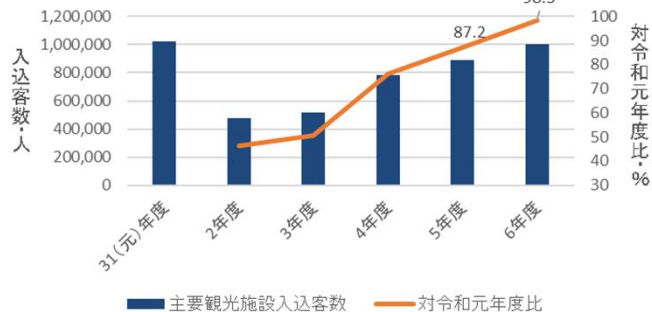
令和7年5月2日
北海道財務局北見出張所

空港利用客数の推移



資料：北海道エアポート（株）女満別空港事業所、オホーツク紋別空港管理事務所

主要観光施設入込客数の推移



資料：網走市観光協会、オホーツク管内各観光施設

知床宿泊者数の推移



資料：知床斜里町観光協会

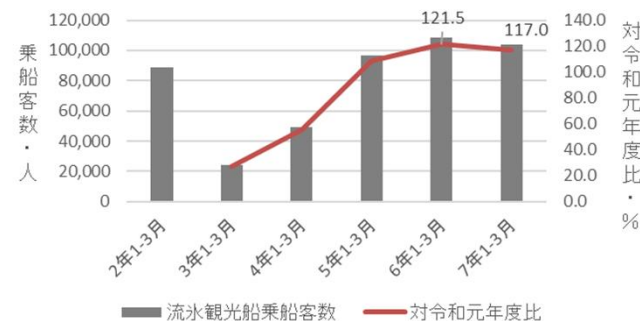
令和6年度のオホーツク管内の観光産業は、コロナ禍前と同程度まで回復している状況がうかがえる。

- ◆ 令和6年度の空港利用客数及び主要観光施設入込客数はコロナ禍前（令和元年度）の水準まで回復している。一方、知床宿泊者数は、客室数の減少などによりコロナ禍前の8割程度の回復にとどまっている。
- ◆ 知床宿泊者数は減少しているものの、宿泊施設ではサービスの高付加価値化で客単価上昇を図ったことにより、売上面ではコロナ禍前を上回っている状況にある。
- ◆ 令和7年1～3月期の流氷観光船乗船客数は、流氷の接岸が遅かったものの、好調であった昨年と同水準となるなど、インバウンドを中心とした旅行需要の回復がうかがえる。

【企業・関係団体からの生の声】

- 2月・8月の最盛期は、既に収容可能数いっぱいの観光客を受入れているため、閑散期の集客が今後の大きな課題である。（観光協会）
- 冬季の入込客数はコロナ禍前よりも増えていると感じているが、宿泊施設の人手不足などを背景に、1部屋を広くし高価格・高品質化するなど、各宿泊施設の狙いが量（人数）から質（価格）へ変化してきている。（観光協会）
- 4名用としていた客室を2名用として提供し、1部屋を広くした高価格の客室を増やしているほか、ハイクレイド客室専用のラウンジを新設するなど、高付加価値化による客単価上昇を図っている。1部屋当たりの定員を少なくしていることなどから宿泊者数はコロナ禍前には及ばないものの、売上額は客単価上昇により増加している。（宿泊施設）

流氷観光船乗船客数の推移



資料：網走市観光協会、オホーツク管内各観光施設

<今後の展望>

オホーツク地域が有する観光資源を活かし、宿泊施設におけるサービスやアドベンチャータラベルの推進などの高付加価値化に加え、閑散期における集客の工夫などの実施により、オホーツク地域の魅力がさらに向上し、持続可能な観光地域となることが期待される。